

TOPICS

01 ●埼玉県ホンダ会 一人でも多くのお客様に交通安全へ 目を向けていただくために



子どもたちとコミュニケーションをとりながら、「あやとり交通安全教室」を進める Honda Cars 埼玉の森川夢香さん

埼玉県内の Honda Cars (四輪販売会社) で構成する埼玉県ホンダ会が11月15日、国営武蔵丘陵森林公園 (埼玉県滑川町) のイベント「Outdoor Park in 森林公園」の中で、交通安全教室を開催した (共催: 本田技研工業 (株) 安全運転普及本部)。埼玉県ホンダ会の会長を務める Honda Cars 埼玉県央・代表取締役社長の田口忍さんは開催の意義について次のように語る。

「大勢の人が集まるイベントで交通安全教室を実施することは、一人でも多くのお客様に交通安全に目を向けていただけますし、私たち Honda Cars 全体の交通安全に対する意識も高まると考えました。また、交通安全の啓発とともに Honda 車の展示も行いますので、Honda SENSING という先進の安全運転支援技術を紹介することで、お客様に Honda の安全に対する姿勢や想いを感じていただきたいと思っています」。

会場内に設けられた Honda のブースには、「あやとり交通安全教室」「Honda 自転車シミュレーター」「交通安全クイズ&ぬりえ」のプログラムが用意され、来場者は興味のあるものを選んで参加できるようになっている。

「あやとり交通安全教室」では、Honda



Cars 埼玉 (本社: 埼玉県さいたま市) のスタッフである森川夢香さんが、Honda の交通安全教育プログラム「あやとりいひよこ編 (以下、あやとりい)」を使って子どもとその保護者を対象に交通安全指導を行った。Honda Cars 埼玉では、各拠点の女性スタッフを対象にした「あやとりい」の勉強会を今年7月に実施。



道路を歩くべき場所や、信号機のある交差点での安全確認行動について、「あやとりい ひよこ編」のワークシートを使って解説

森川さんは、この勉強会で安全運転普及本部スタッフから指導方法を学んでいる。

「あやとり交通安全教室」は、交通環境の音や道路の正しい歩き方などを参加した子どもたちとコミュニケーションをとりながら進めることにより、楽しみながら学べる場となった。導入の「音当てクイズ」で

は街の中で耳にする様々な音を順番に再生し、何の音かを子どもたちに答えてもらう。続いて、歩道や路側帯の道路が描かれたワークシートを見せて、「どこを歩けばいいか、教えてくれるかな?」と森川さんが問いかける。そして、子どもの一人に男の子のイラストを手渡すと、子どもはそのイラストを道路の右端に貼り付けた。森川さんは「正解です。このような道路では右側の端を歩くと、クルマと人が互いによく見えるので安全です。そして、道の角に来たら必ず止まって、クルマが来ていないかよく観てから進んでください」と補足する。最後に、歩行者用信号の「赤」「青」「青点滅」それぞれでの安全確認行動を説明。「青」であっても、横断歩道を渡る前に、止まって左右の安全確認するよう強調した。

埼玉県狭山市から7歳の女の子と参加した母親は「『止まって左右を観る』ことの必要性が子どもが理解できたので、参加して良かったと思います。道路を歩く時や自転車に乗る時の安全行動を教えていただき、私自身も勉強になりました」と感想を話してくれた。



来場した多くの子どもたちが Honda 自転車シミュレーターを体験

指導を終えた森川さんは「交通安全指導をするのは初めてです。参加してくれたお子さんには『止まる』『観る』ということ覚えて帰ってほしいと思い、指導に取り組みました。私の問いかけに子どもたちがすぐに手を上げたり、答えてくれたので、スムーズに進行できたと思います。まず、やってみることが重要だと思いますので、この経験を他のスタッフにも伝え、各拠点での交通安全指導の実施を促していきたい」という。

埼玉県ホンダ会では今後、県内の販売会社で『あやとりい』を使った指導ができるスタッフを増やし、販売会社独自の交通安全活動も強化したい考えだ。



埼玉県ホンダ会会長の田口忍さん (Honda Cars 埼玉県央・代表取締役社長)

※あやとりい= Honda が三重県鈴鹿市と協力して開発した交通安全教育プログラム。幼児~小学校低学年対象の「あやとりい ひよこ編」、小学3~4年生対象の「あやとりい 長寿編」がある。あやとりいは「あんぜんを やさしく とときあかし りかいて いただく」の略。詳細は以下ホームページを参照。
<http://www.honda.co.jp/safetyinfo/kyt/ayatorii/>

02 ●第2回交通安全動画・ポスターコンテスト結果発表 動画6作品、ポスター8作品が入賞

Hondaでは昨年に引き続き、今年も7月から9月にかけて交通安全の動画やポスターを一般の方々から募集。第2回となる今回のテーマは「みらいの交通社会」。「いろいろな乗り物を運転する人や歩く人、またはクルマやバイク、自転車がこうなったらもっと安全になるのでは?」ということを30秒の動画やポスターとして表現してもらい、コンテストを実施した。Honda 社内での厳正な審査の結果、動画6作品、ポスター8作品が受賞作に輝いた。入選作品は、Honda のホームページで公開されている。

〈動画の部〉
大賞: 静岡県 鈴木さん・青野さん・溝口さん (静岡大成高等学校放送部)
優秀賞: 福岡県 淵上さん、大阪府 代表・河内さん (肥後橋映像同好会)
Honda 賞: 兵庫県 平川さん、神奈川県 山村さん、兵庫県 滝川第二中学校高等学校キャンパスナビゲーターの皆さん
〈ポスターの部〉
大賞: 福岡県 福井さん
優秀賞: 神奈川県 佐々木さん、福岡県 山本さん

Honda 賞: 福岡県 木庭さん、東京都 ハルミカさん、岡山県 安木さん、埼玉県 弘山さん、三重県 福田さん



ポスターの部・大賞

動画の部・大賞

TOPICS

03 ● Honda の高校生交通安全教育 高校の先生方による生徒への交通安全教育に向けて ～Honda の「指導マニュアル」の検証～



実技での体験とあわせ、先生が問いかけを行うことで生徒の気づきを促す

実技による教育で 生徒の意識を変える

高校生の年代は、交通社会の一員としての責任を自覚した行動が求められる時期である。Honda は生徒自身が交通安全について主体的に考え、自らが交通事故から身を守るようになるとともに、他の交通参加者への思いやりの心を身につけてほしいという考えのもと、独自に高校生交通安全教育プログラムを 2012 年に開発し、全国の高校に広げるとともに、各高校が交通安全教育を継続して実施できるための体制づくりもサポートしている。そして、活動意志のある高校が自主的に運営できることをめざし、試行版として「高校生交通安全教育指導マニュアル（以下、マニュアル）」を作成した。このマニュアル（DVD）には、高校生の自転車による交通事故の防止を目的とした「実技」「感受性教育*」といったプログラムを収録。「実技」では「集合」「誘導」「内容の説明」「デモンストレーション」「実走行」「まとめ」などについて映像を使って解説している。

9割近い生徒が通学に自転車を利用している群馬県立太田工業高等学校は、2013 年から Honda の高校生交通安全教育を取り入れている。同校生徒指導部交通係の中島雅人教諭は「私たちが『交通ルールを守るように』というだけでは生徒の意識は変わりません。自転車には危険な側面があるということを生徒に自覚させることが重要です。その意味で、Honda の高校生交通安全教育は実技もあり、意識を変えてもらうのに有効だと感じています」と話す。

3 年目を迎えた今年は、同校の先生方 18 名が 2・3 年生の生徒約 400 名に自転車教育（実技と座学）を 10 月 22 日と 11 月 5 日に実施。中島教諭は指導に対する考え方を全員で共有するため、事前にマニュアルを担当の先生方に配付した。「マニュアルは実技のコースづくりから、指導の流れ、生徒に指導するポイントが網羅されているので、これを共有すること

で意思統一ができたと思います。また、映像を見ることで、どのような指導をすべきかイメージできました」。

生徒自身が考え、自ら答えを導き出す

太田工業高校は今回の実技として、「8 の字走行」と「反応・回避」を取り入れた。それぞれを担当する先生方はマニュアルに沿って進めていく。

「8 の字走行」では直径 10 m の円をつなげた 8 の字コース内を自転車 20 台で走行する。最初のうちは、20 台が入りきる前に 8 の字の交差する箇所で自転車が接触してしまう。先生は生徒を集め、全員でスムーズに走るために必要なことは何か問いかけ、「ゆっくり走る」「他の人の動きをよく観る」「譲り合う」という答えを生徒から導き出す。それらを実践するこ



8 の字走行

とで、最終的にコース内を 20 台で走行することができた。先生方が教えるのではなく、生徒自身が考え、自ら答えを導き出すことが重要なのである。

「反応・回避」は先生に向かって直進し、先生が上げた旗と逆方向に回避するというもの。これを両手でハンドルを持っている時と片手の時で行う。片手運転では、バランスを崩して安全に回避できないこ



反応・回避

とを体験してもらう。

実技をとまなう自転車教育を行ったのは今回が初めてという武藤将充教諭は「マニュアルには実技の際、生徒に声をかけるタイミングや話すべき内容が細かく書いてあったので、スムーズに進行できました」という。巻健太教諭は「思いやりや譲り合いの気持ちの大切さを生徒に気づかせるための手法として、『8 の字走行』は効果的だと思いました」と話す。

中島教諭は「今後、マニュアルをもとに教員同士で話し合っ、指導内容に改善を加えていきたいと考えています。来年度以降も、私たちだけで生徒への交通安全教育を継続していくつもりです。そのために、担当の教員が異動しても継続できるような体制づくりにも取り組みたい」と力強く語った。



座学ではルール（人の従うべき規則）とマナー（人に対して思いやる心）が交通安全に重要であることを説明

Honda は現在、各高校でこのマニュアルの検証を進めており、早期の完成をめざしています。「高校生交通安全教育指導マニュアル」に関心をお持ちの先生、地域指導者の方は下記にご相談ください。本田技研工業（株）安全運転普及本部 TEL :03(5412)1736



*感受性教育＝交通社会人としての責任を自ら考える座学。事故の事例から交通事故の怖さ、周囲への影響、事故に伴う責任の重さについて学び、グループ討議の手法を使い、自分の考え方や行動を見直すことを学ぶ。

04 ●第 46 回全国白バイ安全運転競技大会 全国の白バイ隊員が高度な安全運転技能を競う

10 月 10 日、11 日の両日、自動車安全運転センター安全運転中央研修所（茨城県ひたちなか市）にて第 46 回全国白バイ安全運転競技大会（主催：警察庁）が開催された。この大会は、全国の白バイ隊員の安全運

転技能の向上、士気の高揚及び隊員相互の融和団結を図ることを目的として、昭和 44 年より実施されている。今年は、43 都道府県警察及び皇宮警察から、女性隊員 45 名を含む 186 名の選手が参加。バランス走行

操縦競技、トライアル走行操縦競技、不整地走行操縦（モトクロス）競技、傾斜走行操縦（スラローム）競技の計 4 種目によって熱戦が繰り広げられ、2 日間で約 4500 人が観戦した。

主な結果は以下の通り。

- 団体の部
 - （第 1 部・9 都府県警察）
 - 優勝／神奈川県
 - 第 2 位／警視庁
 - 第 3 位／兵庫県
 - （第 2 部・35 道府県警察等）
 - 優勝／熊本県
 - 第 2 位／長崎県
 - 第 3 位／三重県

- 個人競技の部
 - （男性の部）優勝／結城靖（神奈川県）
 - （女性の部）優勝／崎久保千鶴（愛知県）

